

放課後児童健全育成

学童クラブは、放課後や長期休業中に家庭で過ごす時間が少ない子どもたちが安心して・安全に・心豊かに過ごせる場所です。その目的は、子どもを「預かる」だけではなく、放課後の生活を通して、心身ともに健やかに成長できるよう支援することです。

第一の目的は、放課後の子どもたちが安心して過ごせる環境を整えることです。職員が常に見守り、けがやトラブルを防ぐだけでなく、子どもの気持ちを丁寧に受け止め、安心できる関係を築きます。「ただいま」と帰ってこられる場所、それが学童クラブです。

学童では、学年や学校の異なる子どもたちが共に生活しています。遊びやおやつを通して、「譲る」「待つ」「助け合う」「感謝する」といった社会性を学びます。年上の子はお手本となり、年下の子はあこがれをもつ——そんな自然な関わりの中で、思いやりや協調性が育まれます。

荷物の整理や片付け、時間を守ることなど、毎日の生活の中で少しずつ「自分のことを自分でできる力」を伸ばしていきます。おやつの準備や後片付けを子どもたち自身で行うことも、自立の大切な練習です。

学童では、学校の宿題に取り組む時間を設けています。ただ「終わらせる」ことを目的とせず、職員が内容を確認しながら、必要に応じて間違い直しや助言を行います。家庭に帰ってから親子で穏やかな時間を過ごせるようにすることも、学童の大切な支援のひとつです。

おやつの時間や自由遊びも、単なる休憩ではありません。友達や職員と一緒に食べたり遊んだりする中で、心が満たされ、安心感や情緒の安定につながります。外遊びで体を動かすことはストレスを発散するだけでなく、健康な体づくりや、様々な非認知能力や情操を育みます。

学童クラブは、家庭と共に子どもたちの成長を見守り、支える「もうひとつの育ちと学びの場」なのです。

宿題への取り組み

私たちの学童クラブでは、「家庭での親子の時間を確保する」ことを最も大切に考えています。家庭は、子どもたちが安心して心をゆるめ、自分を取り戻す場所であってほしい。だからこそ、学童で宿題を終わらせてから帰す方針を取っています。

「宿題をさせるなんてかわいそう」と感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、実はその反対です。子どもたちが家に帰ったとき、親が笑顔で迎えられる環境こそ、子どもの心を最も健やかに育てます。学童が「子どもにとって少し嫌な役」を引き受けてでも、家庭をより心地よい場所にするための存在でありたいのです。

そしてもう一つ、子どもたちが自分の力で「やるべきこと」、「いやなこと」を済ませてからのびのびと遊ぶ、そんな姿勢や習慣を育てることも大切だと考えています。これは、勉強だけでなく、将来の仕事や人間関係にもつながる大切な姿勢です。早くから「やることをやってから楽しむ」というリズムを身につけておけば、後で慌てる必要がありません。中学生になって慌てて塾に通ったり、親が焦って勉強させたりすることも少なくなるでしょう。そしてそんな姿勢の上に、生きる力、困難を乗り越える力ーレジリエンスーが育まれていくのです。

今のうちからゆっくりと時間をかけて、そんな力を育てておきましょう。

子どもたちが帰ってきたら、その日に学童で終わらせた宿題に必ず目を通して、喜んでやってください。

「がんばったね、お父さんも頑張ろうかな。」

「宿題が終わってるから好きなことができるね。」

「宿題やってきてくれるから助かるよ。」

そんな声をかけながら、親が笑顔で喜ぶ姿こそが、子どもたちの心を動かし、次の行動につながっていきます。

子どもたちの健全育成のために、学童と家庭がそれぞれの役割を生かし合い、子どもたちが安心して伸びていける環境を、一緒につくらせてください。